

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

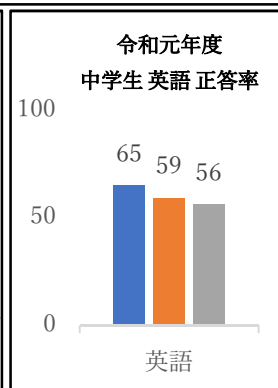
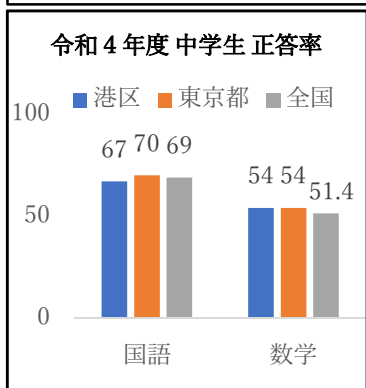
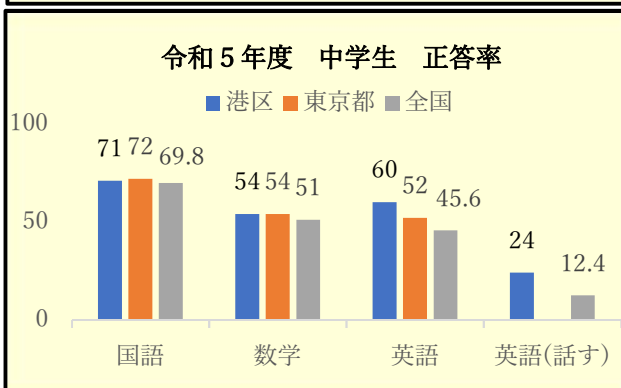
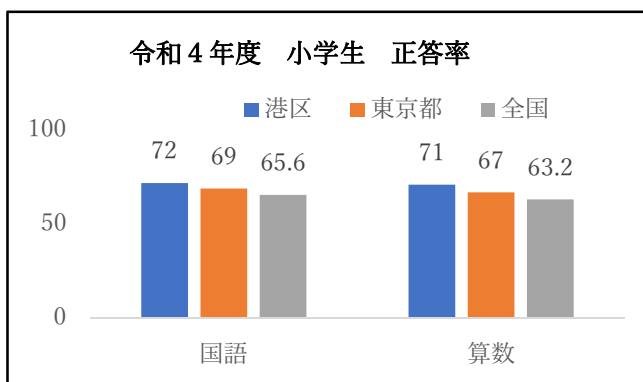
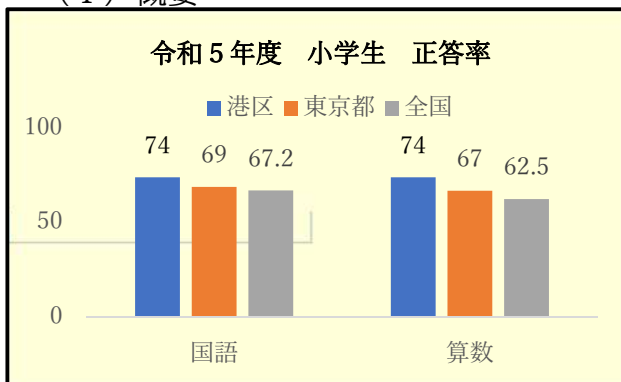
報告内容
令和5年度全国学力・学習状況調査の港区の結果について報告いたします。

1 調査概要

- (1) 実施日 令和5年4月18日(火)
 - (2) 調査対象 小学校第6学年児童及び中学校第3学年生徒
 - (3) 調査内容
 - ① 小学校第6学年 国語・算数・児童質問紙
 - ② 中学校第3学年 国語・数学・英語(4年毎実施)・生徒質問紙
- ※ 質問紙：調査する学年の児童・生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問を実施した。

2 教科に関する調査結果

(1) 概要



【小学校】

- ・ 2教科ともに全国及び東京都の平均正答率を上回っている。
- ・ 国語は東京都を5ポイント、全国を約7ポイント上回っている。
- ・ 算数は東京都を7ポイント、全国を約11ポイント上回っている。

【中学校】

- ・ 国語は東京都を1ポイント下回り、全国を約1ポイント上回っている。
 - ・ 数学は東京都と同じであり、全国を3ポイント上回っている。
 - ・ 英語(書く・聞く)は東京都を8ポイント、全国を約14ポイント上回っている。
 - ・ 英語(話す)は全国を11.6ポイント上回っている。
- ※英語(話す)については、東京都の正答率は示されていない。

(2) 各教科の詳細

① 小学校

【国語】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	東京都(公立)	全国(公立)	
全体		14	74	69	67.2	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	77.4	73.6	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	70.0	66.5	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	80.0 ※1	73.5	72.6
		B 書くこと	1	32.6 ※2	28.9	26.7
		C 読むこと	3	77.7	73.2	71.2
評価の観点	知識・技能	7	75.3	71.6	68.9	
	思考・判断・表現	7	72.3	67.0	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	79.6	75.9	73.6	
	短答式	2	71.4	66.4	62.7	
	記述式	3	57.7	51.4	51.1	

小学校国語では、学習指導要領の内容のうち「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の両項目が、すべて東京都、全国を上回っています。特に「**思考力、判断力、表現力**」のうち「**話すこと・聞くこと**」の平均正答率は、**80%※1**であり、東京都、全国と比較すると、およそ7ポイント程度上回っています。

一方で、「**書くこと**」の平均正答率は**32.6%※2**であり、東京都との差はおよそ3ポイント程度であることから、今後、更なる向上を目指していくことが必要です。具体的な取組みとして、教科横断的に文章に対する感想や意見を伝えあう活動を繰り返し行い、優れた文章の書き方を身につけることなどが考えられます。

【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	東京都(公立)	全国(公立)
全体		16	74	67	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	78.0	71.0	67.3
	B 図形	4	63.1 ※3	54.8	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	82.1	75.8	70.9
	D データの活用	3	72.2	67.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	77.8	71.5	67.2
	思考・判断・表現	7	68.8	61.2	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	70.7	63.2	57.7
	短答式	7	83.4	78.0	74.7
	記述式	4	61.2 ※4	52.4	47.3

小学校算数では、学習指導要領の領域がすべて東京都、全国を上回っています。特に「**B 図形**」は、東京都と比較するとおよそ8ポイント、全国と比較するとおよそ**15ポイント**程度上回っています。※3

問題形式のうち、「**記述式**」は平均正答率が**61.2%※4**でした。東京都、全国を上回っているものの、およそ4割の児童が不正解であったことから、記述式問題の解決に工夫して取り組んでいく必要があります。具体的には、日々の授業における課題の解決に際し、思考の結果を児童間で共有させるだけでなく、思考の過程に着目させ、共有・吟味し合う活動を多く取り入れていくことなどが考えられます。

② 中学校

【国語】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴教育委員会	東京都(公立)	全国(公立)	
全体		15	71	72	69.8	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ※6	2	67.0	69.6	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	67.6	66.2	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	71.0	73.1	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	84.5	84.4	82.2
		B 書くこと	2	66.2	66.8	63.2
		C 読むこと	4	65.4	67.2	63.7
評価の観点	知識・技能 ※5	7	68.9	70.1	69.4	
	思考・判断・表現	9	72.0	72.9	69.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	75.6	75.9	73.1	
	短答式	4	65.0	65.6	65.6	
	記述式	4	69.1	70.8	68.0	

中学校国語では、評価の観点うち「知識・技能」は東京都、全国の数値を共に下回っています。※5「思考・判断・表現」は、東京都は上回り、全国を下回っています。

「知識及び技能」のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は正答率が特に低い※6ことから、今後は、漢字や文法など、言語に関する基本的な事項の正しい定着が求められます。具体的な取組として、教科横断的に文章を書く際はなるべく漢字を使わせることや、わからない語句は辞書で調べる習慣を身につけさせることなど、言語に対する意識を日常的に高めさせることが考えられます。それに加え、学校で漢字の学習を毎日行うほか、デジタル教材やドリル教材などを活用して、家庭でも繰り返し取り組めるよう配慮する必要があります。

【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	東京都(公立)	全国(公立)
全体		15	54	54	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	64.7	66.0	63.0
	B 図形	3	40.1	39.2	33.2
	C 関数	4	55.0	54.3	51.2
	D データの活用	3	46.4	50.4	48.5
評価の観点	知識・技能	10	57.9	58.7	55.7
	思考・判断・表現	5	44.8 ※7	45.8	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	49.4	48.5	45.3
	短答式	6	63.6	65.5	62.6
	記述式	5	44.8	45.8	41.6

中学校数学では、評価の観点の「知識・理解」、「思考・判断」は共に、正答率が東京都を下回り、全国を上回っています。

学習指導要領の領域のうち「D データの活用」は平均正答率が46.4%で、東京都、全国を共に下回って※7おり、指導の改善が必要であると考えられます。

今後の具体的な取組として、「データの活用」に関して、複数の集団のデータの分布を比較する場面を設定し、データを整理して図に表し、データ分布の傾向を比較して読み取る活動などを充実させることが大切です。

【英語】

(聞くこと・読むこと・書くこと)

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	東京都(公立)	全国(公立)
全体		17	60	52	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	73.4	64.7	58.4
	(2) 読むこと	6	64.4	57.2	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0			
	(4) 話すこと [発表]	0			
	(5) 書くこと	5	37.8 ※9	29.6	23.4
評価の観点	知識・技能	9	66.0	57.9	51.5
	思考・判断・表現	8	52.7	44.8	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	68.9	61.0	54.8
	短答式	3	48.3	37.6	30.1
	記述式	2	22.1 ※10	17.6	13.5

(話すこと)

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)*	
			貴教育委員会	全国(国公立)
全体		5	24	12.4
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	0		
	(2) 読むこと	0		
	(3) 話すこと [やり取り] ※8	4	26.9	14.5
	(4) 話すこと [発表]	1	13.0	4.2
	(5) 書くこと	0		
評価の観点	知識・技能	3	23.9	13.9
	思考・判断・表現	2	24.4	10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	0		
	短答式/口述式	3	23.9	13.9
	記述式/口述式	2	24.4	10.1

※「話すこと」は、東京都の平均正答率は示されていない。

中学校英語では、学習指導要領の領域のうち「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」のすべての項目が、東京都、全国を上回っています。特に「話すこと・聞くこと」のうち「やりとり」の項目は全国をおよそ12ポイント程度上回っています。 ※8

一方で、「書くこと」の平均正答率は 37.8% ※9 であり、東京都、全国を共に上回っているものの約6割の生徒が不正解であったこと、また、「問題の形式が記述式の平均正答率は22.1% ※10」であり、東京都、全国を共に上回っているものの約8割の生徒が不正解であったことから、「書くことの領域」、「記述式問題への回答」を重点的に取り組んでいく必要があると考えられます。

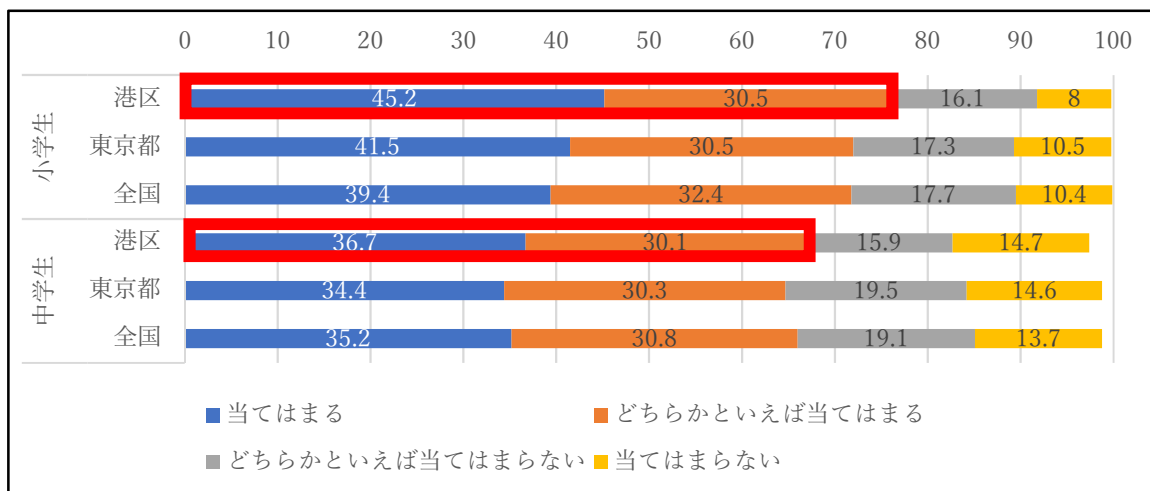
具体的には、簡単な英単語や文法を使って、正確でわかりやすい文章を書くことに繰り返し取り組むことなどが効果的です。授業時間の最後に短い時間で、学習した文法や単語を用いて文章化させることなど、1単位時間の活動を工夫することが大切です。

3 質問紙に関する調査結果

(1) 国語科の学習について または国語教育について

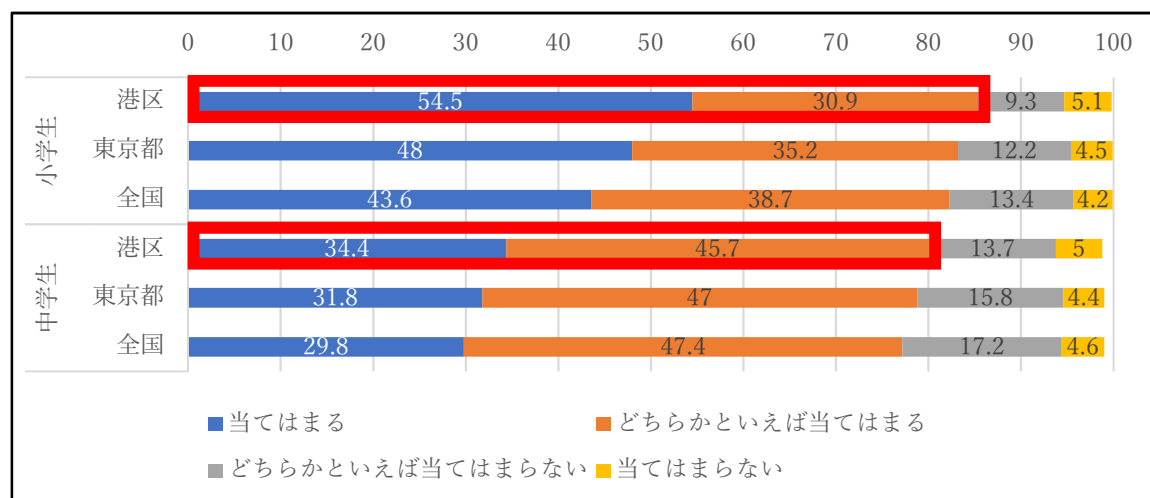
〔質問項目〕 読書は好きですか。

〔結 果〕



〔質問項目〕 国語の授業で、児童においては物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか。生徒においては、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基にとらえていますか。

〔結 果〕



〔考 察〕

読書が好きであると答えた児童は75.7%で、生徒は66.8%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。

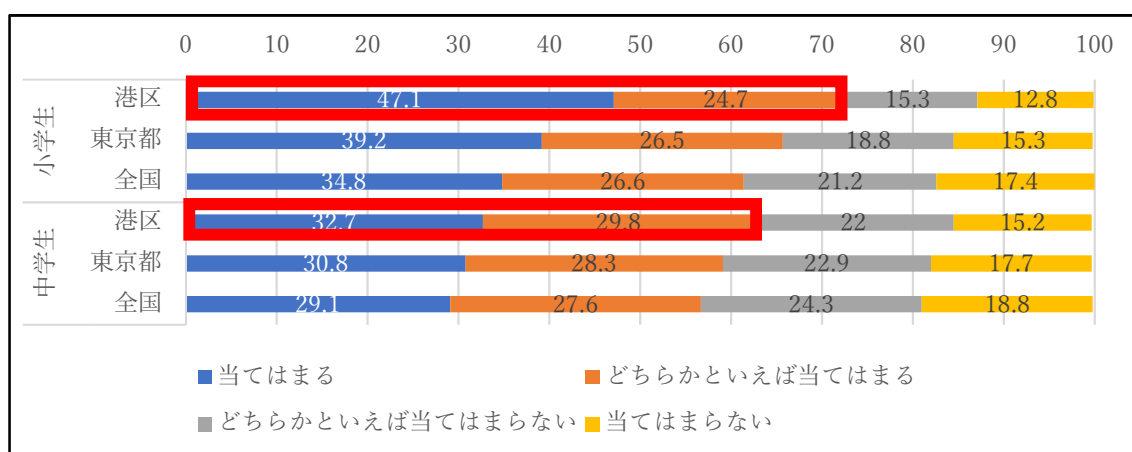
国語の授業で物語を読むときに、登場人物や物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している児童は85.1%、**文学的な文章を読み、場面展開や登場人物の心情変化について描写をとらえている**生徒は80.1%でした。どちらも東京都、全国の割合を上回っています。

本区が取り組んでいる書籍整備の充実や、学校司書、学校図書館支援員の配置など、学校図書館の活用推進が反映された結果であると考えられます。

(2) 算数科・数学科の学習について または算数・数学教育について

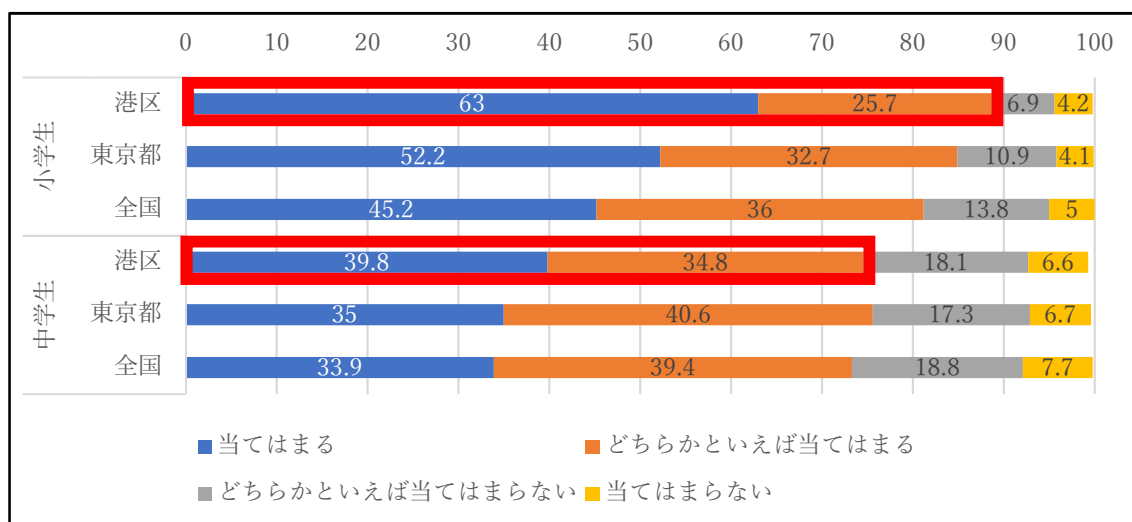
〔質問項目〕 算数・数学の勉強は好きですか。

〔結果〕



〔質問項目〕 算数・数学の授業はよくわかりますか。

〔結果〕



〔考察〕

算数の勉強が好きであると答えた児童は 71.8%で、数学が好きであると答えた生徒は 62.5%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。特に小学生は全国の割合を10ポイント以上上回っています。

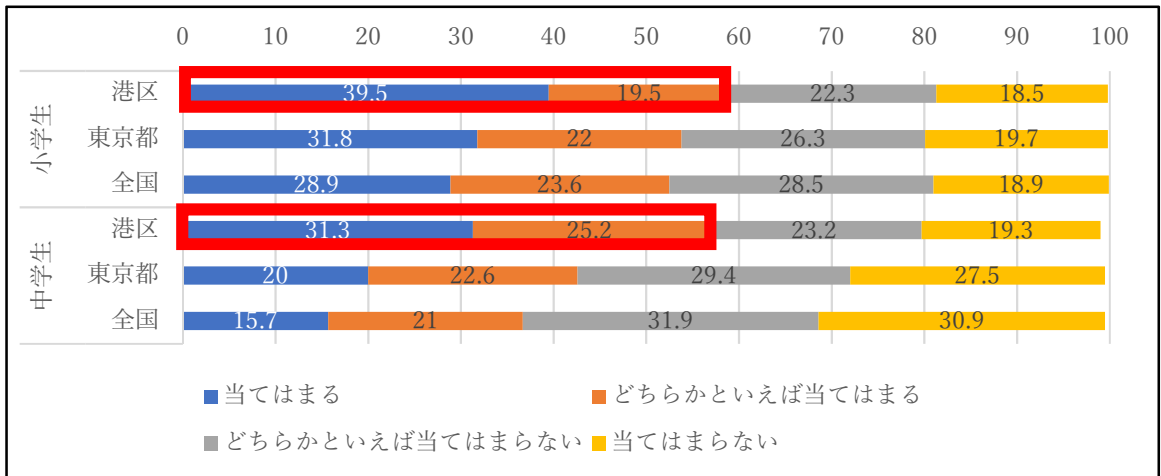
算数の授業の内容がよく分かると答えた児童は 88.7%で、**数学の授業の内容がよく分かる**と答えた生徒は 74.6%でした。**児童は東京都と全国を上回り、中学校では全国を上回っています。**

児童・生徒は、算数・数学の学習に意欲的に学習に取り組むとともに、高い理解度であることがわかります。これは、小学校3年生から取り組んでいる習熟度別・少人数指導において、教師がきめ細かく一人ひとりの学習状況を把握し指導を行っている成果であると考えられます。

(3) 英語(国際科)の学習についてまたは英語教育について

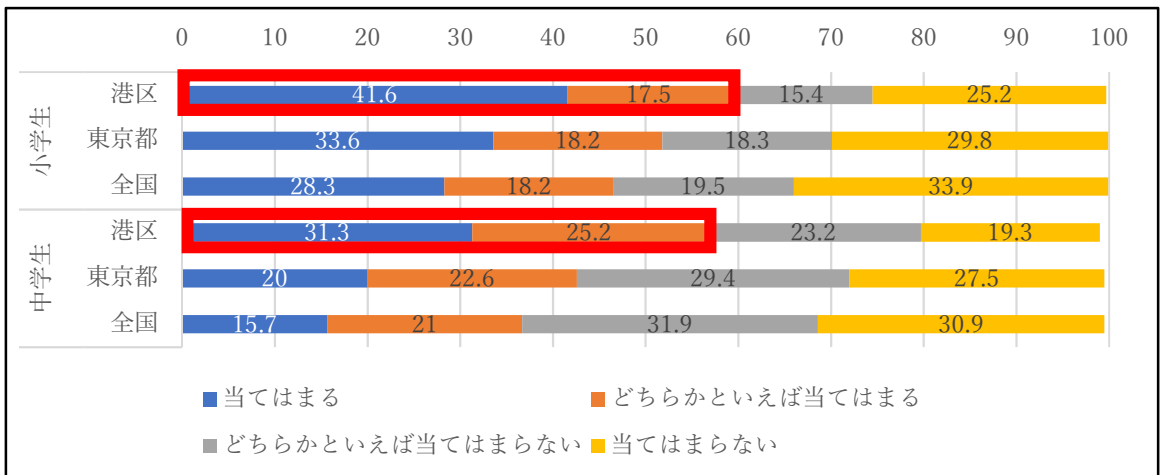
〔質問項目〕 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。

〔結果〕



〔質問項目〕 これまで学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか。(地域の人や外国にいる人と) 英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通う等)

〔結果〕



〔考察〕

将来、英語をつかうような生活をしたり職業に就いたりしたい児童は59%で、生徒は56.5%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。特に中学生は全国の割合より約20ポイント程度上回っています。

同様に、これまで学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあったと肯定的に回答した児童は59.1%で、生徒は56.5%でした。どちらも東京都と全国の割合を大きく上回っています。

「教科に関する調査結果」とあわせて見ると、本区が推進してきた「国際人育成事業」の成果が現れていると考えられます。小学校の「国際科」や中学校の「英語科国際」をとおして、日常的に英語でのコミュニケーションに取り組んでいることで、英語の「読む力」、「書く力」、「聞く力」、「話す力」が高まるとともに、英語を活用しようとする意識が醸成されていると考えられます。

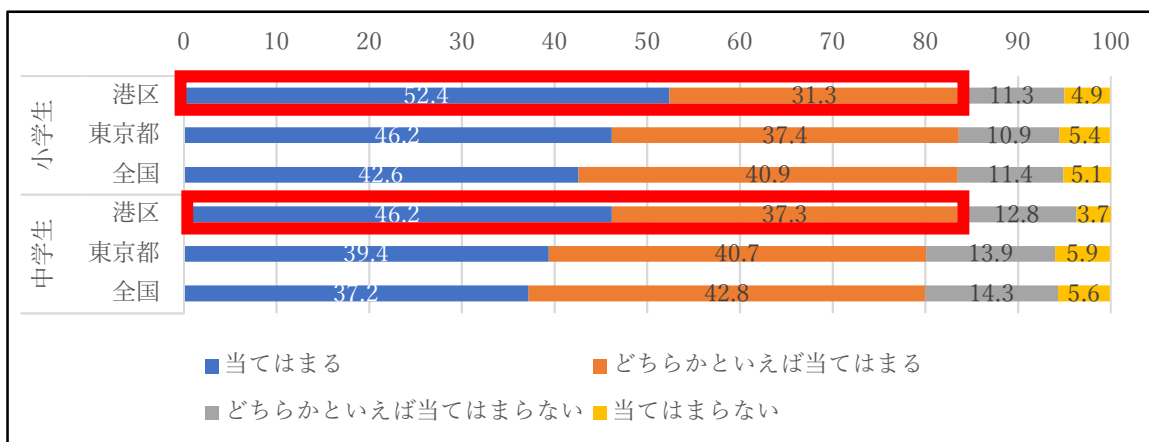
(4) 特徴的な項目について

【東京都・全国と比較し、数値が高かった項目】

① 自己肯定感について

〔質問項目〕自分には、よいところがあると思いますか。

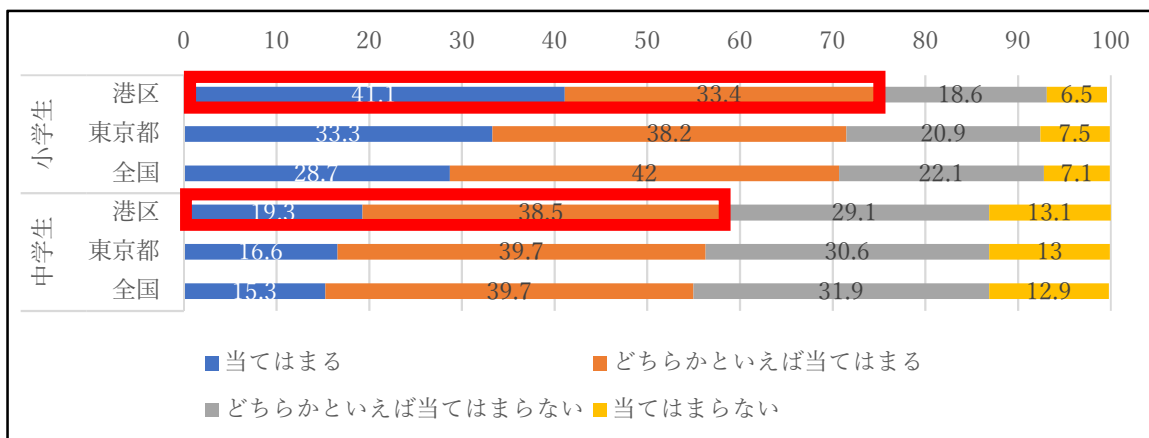
〔結果〕



② 家庭での学習について

〔質問項目〕家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む。)

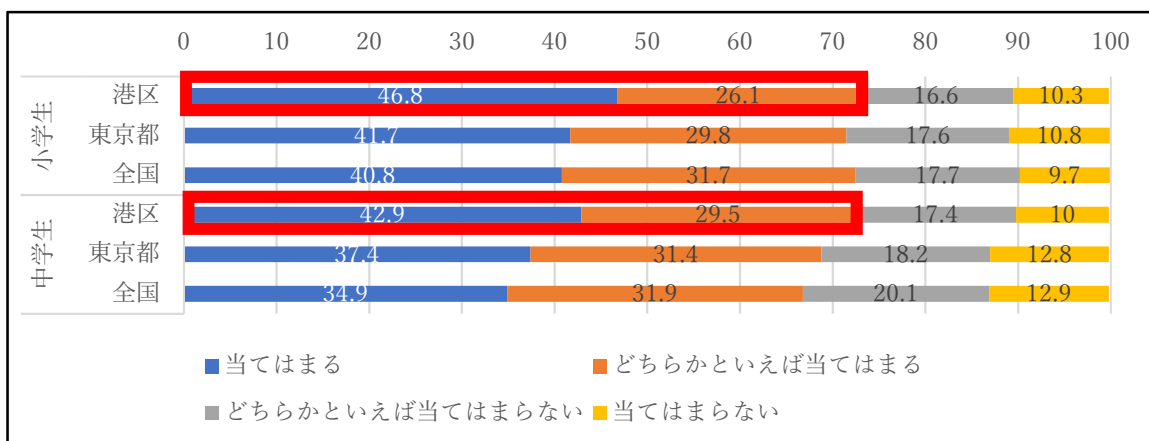
〔結果〕



③ 外国への興味・関心について

〔質問項目〕外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか。

〔結果〕



[考 察]

① 自己肯定感について

自己に関する事項として、「自分には、よいところがある」と捉えている児童は83.7%で、生徒は83.5%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。特に中学生は、全国を約3ポイント上回っており、自己肯定感の高い児童・生徒が多いことがわかります。本区が目指している「徳」「知」「体」を育み、一人ひとりの個性を伸ばす教育の推進中で、自分を大切にする心の育成が図られていると考えられます。

② 家庭での学習について

学習に関する事項として、家で自分で計画を立てて勉強をしている児童は74.5%で、生徒は57.8%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。小学生は全国を約4ポイント上回っており、教科に関する調査結果が高い数値であったのは、学校での学習が充実していることに加え、家庭で計画的に学習に取り組む習慣が身につけていることが理由であると考えられます。

③ 外国への興味・関心について

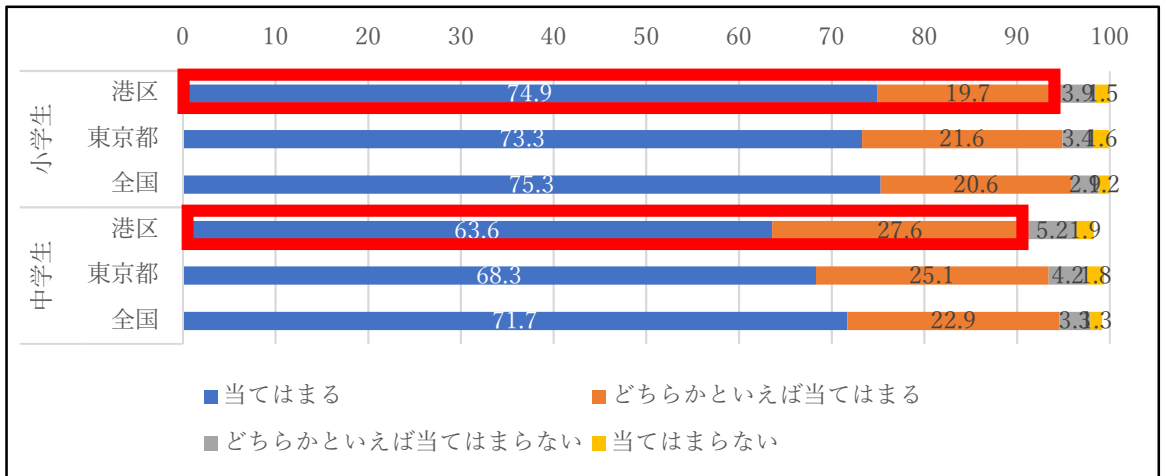
興味・関心のある事項として、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と思う児童は72.9%で、生徒は72.4%でした。どちらも東京都と全国の割合を上回っています。特に中学校は、全国を約6ポイント上回っており、外国との関わりへの興味・関心が、他の地域よりも高いことがうかがえます。これまで港区が取り組んできた「国際人育成事業」の推進により、児童・生徒の国際交流への意欲が醸成されていると考えられます。

【東京都・全国と比較し、数値が低かった項目】

④ 他者への貢献について

〔質問項目〕人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

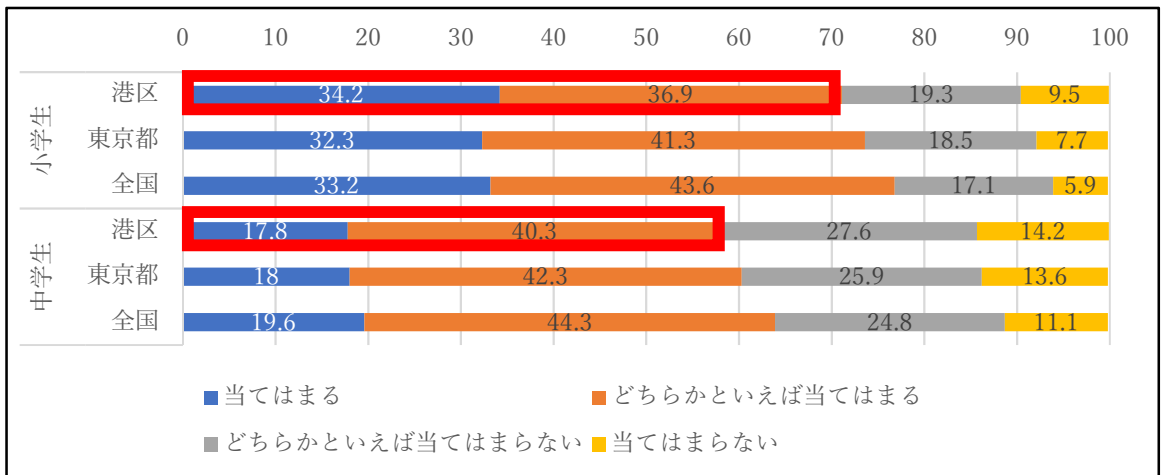
〔結果〕



⑤ 社会への貢献について

〔質問項目〕地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

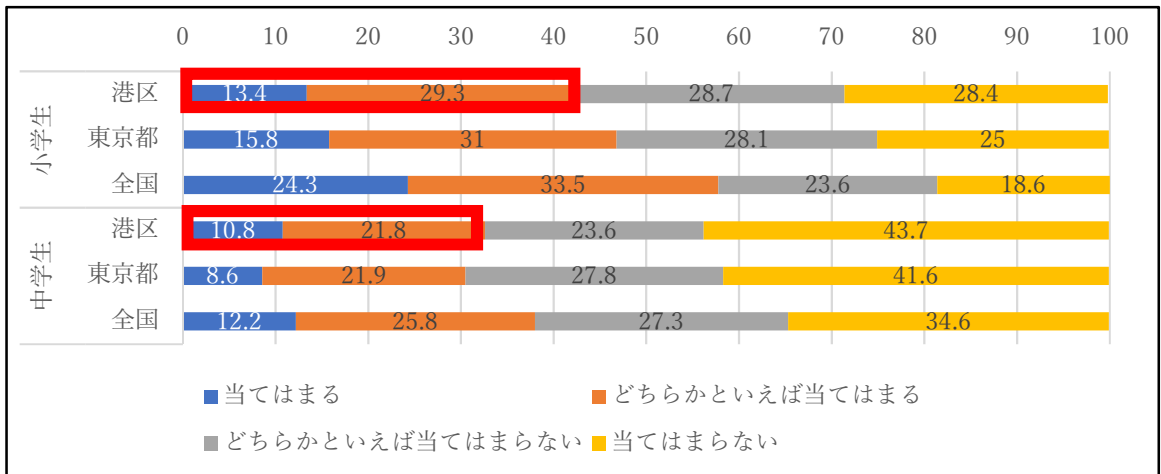
〔結果〕



⑥ 地域へ参画について

〔質問項目〕今住んでいる地域の行事に参加していますか。

〔結果〕



[考 察]

④ 他者への貢献について

人の役に立つ人間になりたいと考える児童は 94.6%で、生徒は 91.2%でした。どちらも東京都と全国の割合を下回っており、中学生は全国の割合より約3ポイント程度下回っています。

⑤ 社会への貢献について

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童は 71.1%で、生徒は 58.1%でした。どちらも東京都と全国の割合を下回っており、小学生、中学生共に全国の割合より約6ポイント程度下回っています。

⑥ 地域への参画について

今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童は 42.3%で、生徒は 32.6%でした。中学生が東京都を2ポイント程度上回ったものの、他はすべて下回っています。特に小学生は全国を約16ポイント程度下回っています。

これらのことから、今後、港区立の小・中学校は、学校と地域が連携した学びの場を設定し、児童・生徒が社会の一員としての自覚をもてるような学習に教科横断的に取り組む必要があると考えられます。

具体的には、児童・生徒が地域に出て郷土学習を行うことや、地域住民とともに地域の課題を解決すること、地域行事に参画することなどに取り組むことで、意欲をもって社会に貢献・参画しようとする心情が養われると考えられます。

4 質問紙調査と平均正答率とのクロス集計（一部抜粋）

(1) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		児童数	児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	している	830	55.1	74.5	74.8
2	どちらかといえば、している	527	35.0	74.7	74.5
3	あまりしていない	121	8.0	68.1	69.3
4	全くしていない	27	1.8	61.9	58.1

<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		生徒数	生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1	している	391	58.0	71.5	54.8	61.4
2	どちらかといえば、している	224	33.2	73.2	54.0	59.9
3	あまりしていない	44	6.5	68.4	49.8	54.0
4	全くしていない	12	1.8	47.8	37.2	35.8

「毎日同じくらいの時刻に起きている」と答えた児童・生徒は、すべての教科で正答率が高い結果が出ています。基本的な生活習慣の定着と学力に関連が見られます。

(2) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)

<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		児童数	児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	よくしている	620	41.1	79.9	81.1
2	ときどきしている	504	33.4	72.0	70.4
3	あまりしていない	281	18.6	67.8	68.6
4	全くしていない	98	6.5	63.8	63.3

<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		生徒数	生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1	よくしている	129	19.1	76.4	60.7	66.6
2	ときどきしている	261	38.7	71.2	54.3	61.2
3	あまりしていない	196	29.1	71.8	53.1	59.1
4	全くしていない	88	13.1	63.7	44.7	47.8

「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた児童・生徒は、すべての教科で正答率が高い結果が出ています。家庭での学習習慣が定着している児童・生徒は学力が高いということがわかります。

(3) 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか。(インターネットを通じて教わっている場合も含む)

<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	教わっていない	370	24.6	63.7	62.5
2	学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている	827	54.9	80.7	82.2
3	学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている	94	6.2	54.3	46.7
4	上記2、3の両方の内容を教わっている	134	8.9	75.3	75.8
5	上記2、3の内容のどちらとも言えない	79	5.2	69.9	69.9

<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
				国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1	教わっていない	169	25.1	68.4	47.3	52.3
2	学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている	206	30.6	78.0	65.3	70.3
3	学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている	78	11.6	60.3	40.3	48.4
4	上記2、3の両方の内容を教わっている	186	27.6	73.2	55.6	61.4
5	上記2、3の内容のどちらとも言えない	27	4.0	60.0	37.8	52.3

児童・生徒共に、学習塾や家庭教師に教わっている人数が多い特徴があります。学習塾や家庭教師に教わるうち、「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている」児童・生徒は特に正答率が高い結果が出ています。

(4) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)

<児童が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語 (14問)	算数 (16問)
1	0～10冊	64	4.2	57.9	58.5
2	11～25冊	153	10.2	63.6	62.0
3	26～100冊	473	31.4	72.4	72.2
4	101～200冊	359	23.8	76.3	76.6
5	201～500冊	322	21.4	77.6	79.3
6	501冊以上	135	9.0	82.1	80.9

<生徒が回答した選択肢別の平均正答率>

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
				国語 (15問)	数学 (15問)	英語 (17問)
1	0～10冊	70	10.4	58.6	39.0	47.6
2	11～25冊	121	18.0	68.8	49.9	56.9
3	26～100冊	200	29.7	73.6	57.0	61.7
4	101～200冊	124	18.4	74.0	58.1	63.9
5	201～500冊	100	14.8	74.3	57.3	63.3
6	501冊以上	44	6.5	76.0	58.3	63.9

家にある本が多ければ多いほど、児童・生徒の正答率が高いという結果が見られます。国語科だけでなく、算数、数学、英語においても、概ね家庭の蔵書数と正答率に比例関係が見られます。